

2 本時の指導（4／16時）

(1) 本時の目標

3～6段落の要点をとらえ、要約することができる。

(2) 本時の展開

主な学習活動と予想される児童の反応	○指導上の留意点 □評価規準 ( ) 評価方法
<p>1 「要点くじ」をする。 当たりくじ…要点を正しくまとめたもの はずれくじ…要点を誤ってまとめたもの</p>	<p>○前時までの学習を想起させ、「要点くじ」をしよう と投げかけ、ゲームにつなげる。</p>
<p>「要点くじ」をしよう。</p>	
<p>&lt; 3段落 &gt; A：まず、和紙のよさについて考えてみよう。 B：和紙の二つのとくちょうは、何によって生まれるのか？ 児：Bが当たり。問いの文になっていて、3～6段落で説明することをまとめているから。</p> <p>&lt; 4段落 &gt; A：紙のやぶれにくさは、せんいの長さのちがいが関係している。 B：紙は、せんいが長いほど、よりやぶれにくい。 児：Aが当たり。3段落の問いの答えになっている。 児：Bは具体的な答えになっているので、まとめているAの方がよい。</p> <p>&lt; 5段落 &gt; A：紙が長持ちするかどうかは、作り方のちがいによる。 B：よりおだやかなかんきょうで作られている和紙は、長持ちする。 児：Aが当たり。理由は4段落と同じ。</p>	<p>○選択型の課題にし、さらにゲーム形式にすることで、国語が苦手な子も参加しやすくする。</p> <p>○これまでの説明文学習を想起させ、問いの文の役割を考えさせることにより、3段落の要点をまとめることができるようにする。</p> <p>○問いの答えは「具体的な答え」と「まとめた答え」の2種類あったことを想起させ、「まとめ」のほうが要点として分かりやすいことを捉えさせる。</p> <p>○短冊にした問いの文、当たりくじ（要点）を黒板に残していくことで、段落同士のつながりが視覚的に分かりやすくなるようにする。</p>
<p>2 6段落の役割を考える。 T「6段落はくじを作らなかった。いらないのではないか？」 児：あった方が和紙のよさを読者も実感できる。 児：あった方が2つのとくちょうが生かされていることがよく分かる。</p>	<p>○「6段落はいらないのでは？」というゆさぶり発問にすることで多様な考えを引き出す。</p> <p>○3～5段落と6段落の関係や、題名にある「世界にほこる」という言葉から、和紙の特長が生かされた具体的な事例があった方が説得力が増すことに気付かせる。</p>
<p>3 3～6段落を要約する。 T「次のうち、どっちがいい？」 A：和紙は洋紙とくらべて、やぶれにくく、長もちするというとくちょうがあり、それはせんいの長さや作り方のちがいによる。和紙のよさは国内外のさまざまな所で実感できる。 B：正倉院には、およそ千三百年前の和紙に書かれた文書が一万点以上ものこっている。 児：各段落の要点をつなげているからAだ。 児：Bは具体的すぎるね。まとめているのはAだ。</p>	<p>○初めての要約であるため、各段落の要点を中心に要約文を書くという方法を知らせる。</p>
<p>4 学習のまとめをする。 ・各段落の要点をまとめるときは、「抽象」（まとめ）の文を中心に考える。 ・要約するときには各段落の要点をいしきする。</p>	<p>○学びのプロセスとしての「要約のまとめ方」の整理をして本時のまとめとする。</p> <p>○次時の見通しを持たせて終わる。</p> <p>□各段落の要点をとらえ、3～6段落を要約することができる。（記述、発言）</p>

